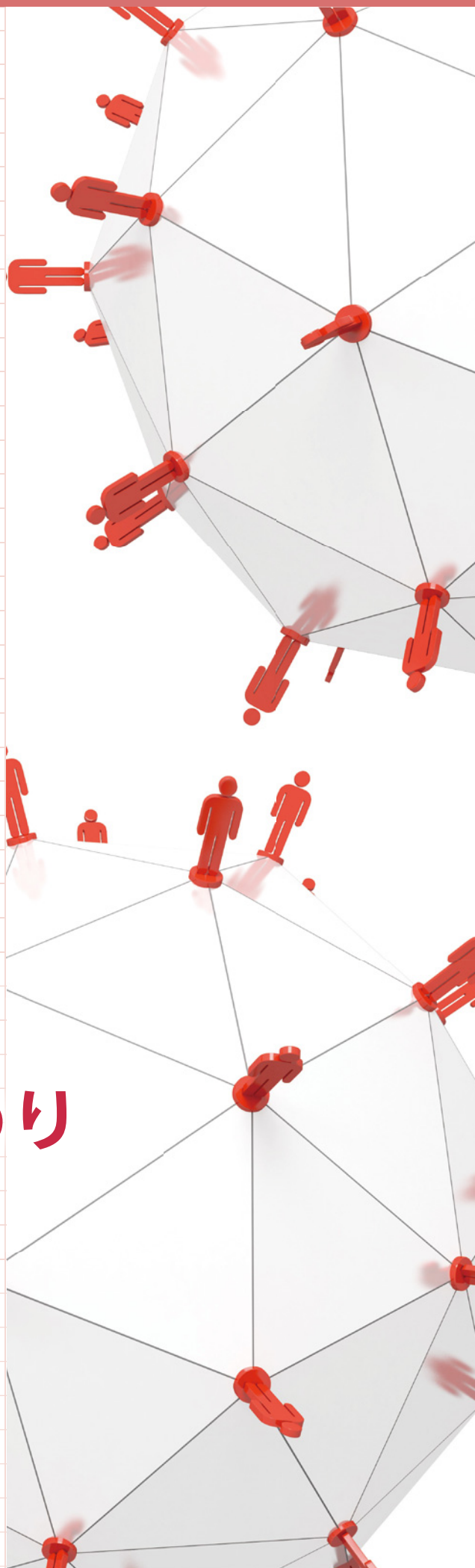


社会とのかかわり

Society



特集

企業スポーツ

スポーツを通じて、 地域・社会の発展を 応援しています。

企業スポーツは、1990年代までオリンピック選手のおよそ50%が企業に属するというように、わが国のスポーツ水準を維持・発展させる大きな基盤になってきました。

また、同じ企業の従業員が、オリンピックなどの大会で活躍することで、応援という一体感による企業風土の形成や社内コミュニケーションの進展につながり、一人ひとりの従業員のモチベーションやロイヤリティの形成にも一役かってきました。

女子野球

企業スポーツが持つさまざまな役割は、久光製薬においても、大きな意義を持ってきました。1958年には女子野球部が創設され、日本女子野球連盟に加盟しました。エースで4番の近藤信子投手を擁して1963年から5連覇を果たし全盛時代を築きました。ライバルチーム三共の大和田恵美子選手との対決は1960年代前半における女子野球最大の名勝負と言われました。

その後、長島茂雄氏(1958年プロ野球入団)のようなスター選手が現れなかったことや、パワーやスピードの面で男子プロ野球に比べ見劣りすることなどから、次第に衰退し、当社のチーム「サロンパス」も1971年に解散しました。



女子野球チーム「サロンパス」

従業員のモチベーションや企業知名度の向上を担って創設した当社の企業スポーツも、チーム解散とともに一旦幕を閉じました。

バレーボール



9人制バレーボール大会

従業員の福利厚生の一つとして始まったバレーボール（1948年設立）は、地元のバレーボール選手が相次いで入社し、1955年に

女子バレーボール部を結成して9人制全日本選手権や都市対抗戦に出場するようになりました。

1972年から、実業団リーグに参戦し、当社の企業スポーツの中心は、前年に解散した女子野球から女子バレーボールに移っていきました。1994年、Vリーグの発足とともにチーム名を「久光製薬スプリングス」とし、兵庫県神戸市と九州本社がある佐賀県鳥栖市を本拠地にV・プレミアリーグに参戦しています。

昨年は、女子バレーでは初めての公式戦5冠※を達成し、地元で達成記念パレードを実施しました。沿道には多くの市民が駆けつけ、地元の盛り上げに一役かいました。

福利厚生の一環としてスタートした社内スポーツは、会社を代表する顔として、また地域を代表するチームとして社会貢献するまでに発展しています。

また、久光製薬スプリングスは日本を代表する選手を数多く擁し、その一流の技に触れたいと、各地で開催するバレーボール教室には、ママさん選手や小中学生のバレーボール選手が数多く参加しています。

財政的独立性を持つクラブチームと違い、企業スポーツは企業がチームを丸抱えするという財政的に大きな負担を伴いますが、企業にもたらされる連帯感の醸成、社内モチベーションの向上にとどまらず、スポーツの維持・発展に寄与するという大きな社会貢献にもなっています。



バレーボール教室には多くの子どもたちが参加しています。

※ 国民体育大会、天皇杯・皇后杯、V・プレミアリーグ、日韓戦、黒鷲旗

企業スポーツの新たな役割

自分で解決する「私」的意識、公的機関に頼る「公」的意識の他に、最近では、関係する人が知恵や力を持ち寄って課題を解決するという「共」的意識が強まっています。

企業スポーツには、これまで培ってきた地域とのつながりや、プロスポーツ・学校での活動・児童のスポーツクラブなどとの連携を生かし、あらたな社会とのつながりを実現する窓口になることも期待されています。

健康で豊かな社会の発展を目指し、久光製薬はこれからも企業スポーツへの支援を続けてまいります。



久光製薬スプリングス

新たな歴史を刻む



久光製薬スプリングス
部長 萱嶋 章

創部66周年を迎えた久光製薬スプリングスは、V・プレミアリーグ2連覇を達成し、アジアクラブ選手権でも優勝することができました。また、地元での主催試合では会場を埋め尽すほどの従業員や地域住民の方に、力強い応援を送っていただき感謝の気持ちでいっぱいです。

練習場の提供や海外遠征の支援など、恵まれた環境で選手たちも実力をつけ、全日本代表へも多くの選手が招聘を受けています。

これからも、世界No.1のチームを目指し、皆さまと共に「新たな歴史」を創っていきたいと思っています。変らぬご声援よろしくお願いいたします。

社会とのかかわり

スポーツ支援

当社は、バレーボールをはじめ、ゴルフやマラソンなどのスポーツ支援を行い、健全な社会の発展と人々の健康づくりを支援しています。久光製薬スプリングスの選手育成を通じた日本女子バレー界の強化や、バレーボール教室の開催による裾野の拡大に努めています。また、ゴルフやマラソン大会などの協賛を行い、スポーツを通じた健康づくりの大切さとスポーツの楽しさをお伝えしています。

■ バレーボール

全日本バレーボール高等学校選手権大会(春の高校バレー)に協賛し、筋肉ケア品やメディカルバッグなどの提供を通じて、選手の健康管理を支援しています。

また、特別協賛を行っている久光製薬杯佐賀県ママさんバレーボール大会には、18歳から70歳代の方まで約800人の方々が参加されました。この大会は、今年で24回目となります。



ママさんバレーでは、年齢別に59チームが熱戦をくりひろげました。

久光製薬スプリングスは、バレーボール振興のためにバレーボール教室を開催しています。小学生から高校生までを対象として、バレーボールの技術指導や基礎トレーニングの仕方などを指導しています。

タイ・バンコクで開催したバレーボール教室では、現地の子どもたちとスポーツを通じた楽しい交流を行いました。

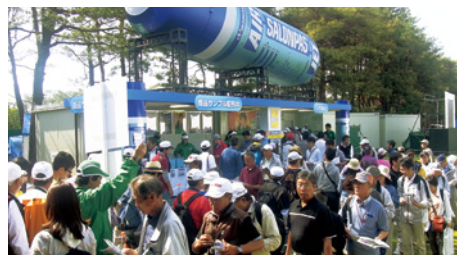


バレーボール教室では、基本技術から教えています。

■ ゴルフ

茨城GCで開催された国内メジャー公式戦ワールドレディスチャンピオンシップ サロンパスカップの特別協賛を行いました。

大会期間中、久光製薬ブースの他にサロンパスゴルフパークを設け、スイングを連続写真で確認できる「チャリティスイングスタジオ」や子どもも楽しめる「スナッグゴルフ」、グリーンが回転する「ターンパッティング」で多くの方にゴルフを楽しんでいただきました。



サロンパスカップでは、当社ブースに多くの方が来場されました。

■ マラソン

大阪マラソン2013、東京マラソン2014に協賛し、当社商品による筋肉疲労のケア支援を行いました。また、EXPOブースでは青山剛氏によるランニング講座を開催しました。

EXPOブースには、大勢の方がお越しいただき、走る楽しさや健康づくりについての情報交換を行いました。



ゴール付近のブースで、筋肉ケアの支援を行いました。

文化・教育

さまざまな文化や芸術に触れることは、豊かな生活を実現するための大切な要素となります。久光製薬は、文化イベントを各地で開催し、地域社会の文化・芸術の振興を通じた「生活の質」向上のお手伝いをさせていただいています。また、くすりに関する教育の場となる博物館や健康科学に関する財団を設立し、科学・教育の発展を支援しています。

■ 久光製薬カルチャー・スペシャルの開催

蜷川幸雄氏演出による久光製薬カルチャー・スペシャル「ヘンリー四世」が、大阪市と福岡市で公演されました。「世界に通じる文化の継承」をテーマに、特別協賛を続けて12作品目となった本作品には、数多くの方にご来場いただきました。



シェークスピアの「ヘンリー四世」には、多くの方にお越しいただきました。

■ 久光製薬鳥栖市民講座

評論家の宮崎哲弥氏を講師に迎え「どうなる日本!? 日本の未来を語る」という演題で講演会を開催しました。スライド等の資料を使って、日本経済の状況や今後の問題点を分かりやすい語りで講演いただきました。

来場者からお預かりした入場料(1,200,000円)は、全額鳥栖市の遺児支援金として寄付しました。

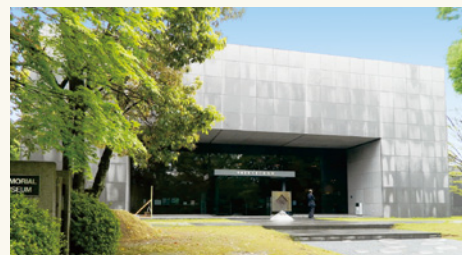


19回目となる鳥栖市民講座には、評論家・宮崎哲弥氏をお招きしました。

中富記念くすり博物館

当館は、くすりの文化遺産を11万点ほど保管し、くすりの基礎知識やくすりの歴史・文化などを学ぶことができるよう数多くの資料展示を行っています。

また、おとそ教室などのさまざまな行事や、出前教室を開催し、くすりに関する啓発活動を行っています。



中富記念くすり博物館には、およそ14,000人(2013年度)の方々が来館されました。

中富健康科学振興財団

健康増進に関する医学・薬学および運動科学の研究に対して、毎年助成金を交付しています。2013年度は助成金70件と、健康科学の発展に功績があった中富健康科学振興賞2件を選び、総額7,000万円を贈呈しました。

中富家の資産提供による財団設立以来、26年間で延べ1,004名の研究者に対し9億6千万円の助成を行いました。



中富健康科学振興財団の贈呈式に、多くの研究者が参列されました。

地域社会とのコミュニケーション

久光製薬は、社会の恩恵を受けて事業活動を継続しており、地域社会との良好な関係の中で共に発展することが重要なことと認識しています。当社は、相互理解のために工場を開放し、当社の事業活動を見ていただいています。また、地域社会との各種交流会や生活基盤向上のための情報提供などを行うとともに、地域の文化財保存にも力をいれています。

■ 工場見学

国内の生産拠点である鳥栖工場では、「サロンパス®」「モーラス®テープ」などの製造工程を、土・日・祝日を除く毎日、一般の方々に見学いただいています。

50名を超える団体や海外からの見学者もあり、当社担当者が複数名でご案内しています。2013年度は、3,650名(135団体)の方々にご来場いただきました。



東南アジアから来社いただいたお客さまをご案内しました。

■ お茶会

九州本社にある別邸および西公園を利用して「茶室本席」や「野点」による茶会を毎年開催しています。400名近くの地元の方や茶道関係者が参加され、茶道文化に触れるとともに、地域交流を深めています。



春のお茶会では、裏千家によるお茶をいただきました。

■ 秋月武家屋敷の保存

秋月武家屋敷久野邸(福岡県朝倉市)は、秋月黒田藩の上級武士の屋敷で、中富博隆社長の母方の生家にあたります。当社は、この貴重な文化財を修理・保存し、一般の方々に公開しています。

2013年度は、2,500名を超える方々が来場され、武家屋敷に残る調度品などを見学されました。



久野邸には、武家の調度品などを展示しています。

■ ケーブルテレビ

子会社であるCRCCメディアと佐賀シティビジョンは、鳥栖市・久留米市・佐賀市を拠点に、光ケーブルを通してテレビやインターネット電話のサービスを行っています。

議会中継をはじめ行政、商工会議所などの情報や、地域住民の皆さまのクラブ・サークル活動取材し、地域の皆さまのお役に立てる情報を放送しています。



ケーブルテレビでは、地域の情報や話題を放送しています。

市民活動の支援

社会課題に取り組んでいる団体やNPOは、高い専門知識や安定した経済的背景を持った組織ばかりではありません。広報の問題、メンバー拡大の問題などさまざまな課題を抱えながら活動されています。久光製薬は、当社が持つ人的・物的資源や情報力、資金などの面で、これらの組織を支援しています。

■ 久光製薬ほっとハート倶楽部

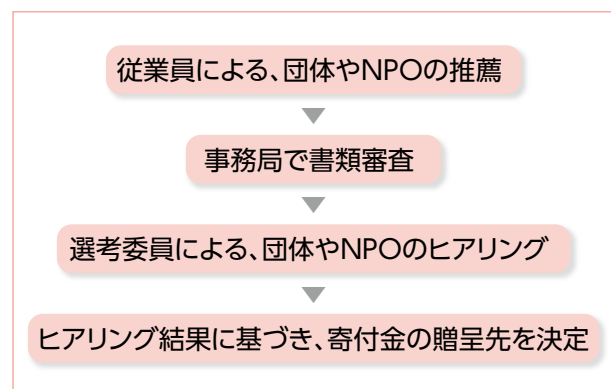
久光製薬ほっとハート倶楽部は、従業員の寄付金と当社からの同額の寄付金で基金をつくり、国内外で活動しているNPOや市民団体を支援しています。寄付先は、従業員からの推薦を受けたNPOや市民団体の中から選んでいます。

2013年度は、東日本大震災復興支援活動団体をはじめ障がい者の支援、環境保全活動、地域文化の保存、発展途上国の子ども支援などを行っている38団体に寄付を行いました。



久光製薬ほっとハート倶楽部の贈呈式を行いました。写真は東京本社での贈呈式。

選定フロー



■ 運動器の10年世界運動(2010-2020)

運動器の10年・日本協会は、世界保健機関(WHO)の「BJD世界運動」を基本理念として、運動器の健康づくり活動を行っています。

当社は、この活動に賛同し、鎮痛消炎貼付剤および学術情報の提供を通して支援を行っています。

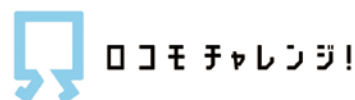
BJD : The Bone and Joint Decade



■ ロコモティブシンドローム啓発運動

運動器疾患や運動機能障害で、寝たきりや要介護(ロコモティブシンドローム)にならないよう、日本整形外科学会では啓発活動を行っています。

「世界の人々のQOL向上を目指す」を経営理念とする当社は、ロコモティブシンドローム啓発運動に賛同し、マスコミなどを通じた啓発活動を行っています。



■ エコキャップ回収活動

社内から排出されるペットボトルのキャップを回収し、エコキャップ推進協会などのNPOに提供しています。

全従業員が自発的に集めた2013年度のキャップは、110kg余りとなり、130人分のワクチンとなりました。

海外子会社の社会貢献活動

ステークホルダーが企業に期待する社会貢献は、国・地域によって異なります。日本では商品の安全性や環境問題への取り組みが注目されますが、海外では地域活動の支援、人権問題、貧困・教育問題への取り組みが強く求められます。海外展開する当社は、その国・地域とのコミュニケーションを大切に、よき企業市民を目指した社会貢献活動に取り組んでいます。

■ ヒサミツインドネシア

社会貢献の一環として、2012年2月からジャカルタにおいて、子ども向け職業体験施設「Chiropractic Center Sponsored by SALONPAS」を運営しています。子どもの頃から病気と治療について学ぶことで、生活の質の向上に資することを目指しています。



職業体験施設キザニアには、2年間で43,000名の来場者がありました。

来場者数が21,000名(5日間)を超えるインドネシアのメジャートーナメント「インドネシアマスターズゴルフ」を支援しています。選手マッサージルームに医薬品を提供するとともに、ギャラリープラザ内には、筋肉ケアの仕方を楽しく学ぶブースを設けています。



マスターズゴルフのギャラリープラザでは、ゴルフ・パットを楽しんでもらいました。

■ ヒサミツベトナム

毎週月曜日の朝、ビエンホア工場周辺の地域環境美化作業を工場従業員全員で行っています。

2013年度は、ベトナム南部のブンタウ海岸にて、早朝6時より社員全員で海岸清掃を行いました。この清掃活動で、ゴミのない綺麗な海岸への一歩とすることができました。



環境美化作業を、ビエンホア工場から約70km離れた海岸でも行いました。

2013年8月にベトナム中部を大型台風が襲い、多大な被害が出ました。この災害に対して、社内募金を行い、総額約10,000,000vndをベトナムの労働組合上部団体を通じて被災者に寄付しました。



台風被害(2013年11月の台風30号)にあった方々への支援を行いました。

■ ノーベン

ノーベンでは、ボランティア活動を支える制度を整え、地域社会との良好な関係づくりに努めています。

これらの制度を利用して、ノーベン従業員は、南部および中部フロリダの低所得家族を対象とした職業訓練、学童保育、野外教育の支援を行っています。

また、カリフォルニア州では、幼児の栄養改善や、食料銀行への支援を行っている農業団体でのボランティア活動も行いました。



UnitedWay活動で、農業センターの補修作業を行いました。

ノーベンと従業員が寄付金を拠出し、\$200,000をUnited Way事務局に寄付しました。寄付金は物資支援やボランティア活動資金として使用されました。

また、低所得農家のQOL改善を行っているNPOに、食料品30箱を寄付しました。感謝祭の材料として使っていただきました。



エンジェル・ツリー・トイ活動で、貧しい子どもたちにおもちゃを贈りました。

■ シンガポール支店

6万人が参加するシンガポール最大のスポーツSAFRAマラソンを支援しました。この大会には、ハーフマラソンの他、10km、5km、800mのファミリーランもあり、子どもから大人まで多くの方が参加されました。

コース各所の給水ポイントやエイドステーション、ゴールエリアで競技支援を行うとともに、マッサージブースでは、障がい者支援の一環として、障がい者と一緒に筋肉ケアのサービスを行いました。



SAFRAマラソンのブースで、障がい者と一緒に参加者支援を行いました。

■ ヒサミツアメリカ

米国(SC州)で開催されたプロテニストーナメント“Family Circle Cup”を支援しました。大会のイベントコーナーにブースを設け、往年の名プレイヤーで現在解説者でもあるPam Shriverさんとの交流会を行いました。

■ ヒサミツブラジル

ブラジル、アマゾナス州マナウス市にある障がい者施設アパエを支援するために、ヒサミツブラジルは、アマゾナス日系商工会議所と共同でチャリティー・バザーを行いました。郷土料理フェイジョアードの提供で得た収益金は全額施設に寄付しました。また、バザー期間中、施設の子どもたちと踊りを通じた交流を行いました。

■ 最先端医療技術への支援

重粒子線を使った最先端のがん治療施設、九州国際重粒子線がん治療センターが九州新幹線新鳥栖駅前に開設されました。線量集中性が高くがん細胞だけを狙うことができる最先端医療の一つで、当社は開設および事業推進のためのさまざまな支援活動を行っています。



重粒子線がん治療が、2013年からスタートしました。

■ NPO・市民団体とのコミュニケーション

子育て支援や障がい者支援をしている団体、環境問題に取り組んでいる団体の方々から、活動するうえでの課題や企業に対する要望をお聞きしました。限られた時間でしたが、企業では気が付かないご指摘や活動上の悩みなど数々のご意見を聞くことができました。

久光製薬が持つ専門技術や、人的資源を使って支援できることも数多くあり、今後の当社の社会貢献活動の参考となりました。

皆さまのご意見

- ・ 社会に必要な活動と思ってやっても、なかなか活動が広がらない。広報にかける人もお金もなかったり、活動内容の説明が難しかったりで、活動を知っていただく事に苦労している。
- ・ 思いを同じくする人が集まって活動していますが、必要な技術を持った人が不足したり、いなかったりで、実現できない場合がある。
- ・ 障がい者にとって必要な活動ですが、苦勞も多く新たな参加者が増えません。メンバーの高齢化が進み、この先継続できるか心配です。
- ・ NPOや市民団体は、お互いに独立してあまり交流がありません。同じ活動課題を抱えていても協働で解決することが少ないように思います。



NPOや市民団体の方々から、数多くのご意見をお聞きしました。

VOICE ▶



地域社会とのかかわりを大事にしています。

「貼って手当てすることの良さをお伝えしたい」これが私の地域社会とのかかわりに対する思いです。

九州総務部・文化事業室としての地域とのかかわりは、鳥栖工場見学、お茶会、久光製薬鳥栖市民講座、久光製薬ほっとハート倶楽部、久光製薬夏祭り等、多岐にわたります。こ

のの一つ一つの活動が本当に地域社会に貢献し、貼って手当てすることの良さが伝えられているか検証しながらブラッシュアップしていきたいと考えています。

特に工場見学ではお客さまに見ていただくだけではなく、貼り薬についてご意見を数多くいただけるように工夫したいと考えています。

会社の成長とともに、地域社会にも評価される様、総務部・文化事業室は一丸となって頑張っています。